

組織混乱を拡大し分裂策動を展開する者たちを許さない！仙台地本見解

私たち仙台地本は、中央本部と共に「新生 JR 東労組」運動をスタートし、職場運動を基礎に会社施策や職場の問題点を組合員の声を基軸に解決すべく、組合員相互のコミュニケーションを徹底的に積み重ね、中央本部や仙台地本の団体交渉等を通じて諸問題の解決と組織強化・拡大の取り組みを着実に前進させてきた。

「新たなジョブローテーションの実施について」でも討議資料を基に組合員一人ひとりの不安を聞きながら議論を繰り返して行ってきた。提案時は多くの不安を抱きながらも、議論を重ねることで課題を明確にしてきた。今後はこの施策を担いながら相互議論を重ねて要求づくりや検証行動を展開し、中央本部と共に団体交渉を通じて問題解消に努めていく。仙台地本としても職場で発生している諸問題を吸い上げ、精力的に団体交渉を行ってきた。現在もダイヤ改正や営業施策、車両センターの業務改善に向けて職場の声を基礎に要求づくりを展開している。仙台地本は今後も様々な施策や職場の問題点などの解決に向けて組合員の皆さんの最先頭で奮闘していくことに変わりはない。

今、東京・八王子・水戸の一部の職場では、新たな労働組合を立ち上げそこに加入するか、JR 東労組に残るか、未加入者になるかの選択を強いられており、職場の組合員の不安は増大し、多くの混乱を生み出している。

仙台地本は組合員の皆さんに訴える！「新たな方針と体制の元で共に歩を一にして進もう！」「嘘・偽り・情報隠蔽体質を許さず、真の JR 東労組運動を未来に向かって共に成長させて行こう！」そして、「今起こっている分裂策動は組織破壊攻撃の何ものでも無い！攻撃を跳ね返す力は JR 東労組の歴史が証明している！」

意志ある組合員の皆さん！今こそ英断すべきだ！勇気を持って共に歩み出そう！

先日開催した再加入組合員との意見交換でも「周りの雰囲気流されて脱退したものの組織に属さない、労働組合に所属していない不安や、突然発表された施策に対して説明が不足していることに疑問を感じても相談できる相手がないことなど不安しかなかった」と意見が出た。また、最後まで残る決意をした組合員は「一方の主張で判断せずに家族や仲間と相談をして JR 東労組に残ることを決断した」「慌てずじっくり考えいまは動かず、組織の動向を見定めてきた」と語ってくれた。この判断が JR 東労組の再生への道を切り拓いた最大の教訓である。また、これまでのたたかひの過程で JR 東労組運動の必要性を再認識して、もう一度結集する仲間やそれを目指す仲間が多くいる事実が証明している。

今後も仙台地本は組合員の利益と雇用を守り抜くことを第一に、JR 東日本会社とは真摯に議論を積み重ねて諸問題を解消し、相互に更なる JR 東日本の発展をこれからも目指していく。組織を混乱させ破壊を生み出す者たちとは決別し、断固たたかひ、更なる組織強化・拡大を推し進めていくことを明らかにし見解とする。

2020年1月28日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部